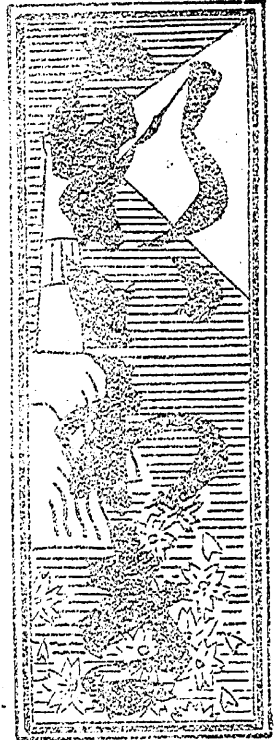


(刊夕)



休日 日曜大祭日
一ヶ月 二十五日
一週 二日
一頁 四角
料 指定 廿錢
發行所 平谷政
印刷所 平谷政
行 丁目五番地
所 會川活版所

豫算編成に先立ち

殺到して来た陳情

代議士や縣議の示奉仕的の時
先を競ふ嘆願に知事頭痛の秋
縣の豫算編成期を控へてのるもの甚だしく前年の八
此頃各地から押かける出願百二十六萬圓を増加するこ
陳情群が愈よ殺到を見せ濱
通りでは四倉漁港の約四十
萬圓松川浦の約三十萬圓と
云はれる縣營漁港修築の

競陳情

石城郡豊岡村もまた多年
の懸案である工費二十五萬
圓の漁港を大部分地元負擔
とする計畫に對して明年度
豫算の
計上を訴へ何れも三
ヶ年乃至七ヶ年繼續とする
事業なので單に地元の人氣
に投せんとするものでなく
相當可能性あるものとなす
自信の許に代議士や縣議が
此際夫々の

奉仕に

民は只管に希望の達成を念
願されてある而して明年度
豫算に臨む本縣現下の財況
は稅收入の減少及び近來漸
く各地に
高唱されんとしつゝ
ある縣立校の授業料値下の
如き順を追ふて歳入を助く

高唱されんとしつゝ

ある縣立校の授業料値下の
如き順を追ふて歳入を助く

平町の傳染病

三十四名の患者で十名死亡
平町本年一月以降の傳染病
患者は五〇名に達して居り
内腸チフスが二二、赤痢一
夏之夜を飾る鎌田川
其數三千の流燈會
今十一日午後六時から

紅白種

紅白種 なる水面の
燈火が相前後する靜かな流
れに水と空とを合せて三層
に飾る美事は眞に筆絶の
麗に對するもので順序は青
観であつて幸ひ天氣もよさ
から同方面の佛教團及び青
年會の主催で行はれる供養
は無縁佛並に

平町の有權者

平町の有權者は若
干増加の模様
衆議方面は若
干増加の模様
平町の有權者は若
干増加の模様
衆議方面は若
干増加の模様

平町の有權者

平町の有權者は若
干増加の模様
衆議方面は若
干増加の模様

源一郎、田卷重三、賞品九月十五日現在による資格
係藤田理事、加藤理事
佐藤伊太郎、岩立淺藏
柏原光太郎、來資係山崎
副長、山内評議員、齊藤若千の増加を見込まれ町會
理事、下野監事、谷口長議員にありては同年の四千
治、救護係羽岡監事、看百に大差なからうと云はれ
護婦二名(以上)

聯合分會武術大會役割

石城郡在郷軍人聯合分會に
於ける武術大會は既報の如
く十四日縣立警中校講堂に
於て開催の管で警剣、軍刀
術、銃劍術三種目に對して
間堀坂、鈴木勇(三)四丁
目八、大河原(五)六、胡
藤澤二六、赤痢小田久太
郎(七七)平鐵道官舎四の二
如くである

平外二ヶ村水害組合總會

平町、飯野、内郷一町二ヶ
村水害豫防組合では十二日
午前十時から平町々會議事
堂に臨時總會を開き昭和四
年五月の出水に於ける内郷
村地新川上流堤防欠損復舊
工事二萬六千七百九十一圓
に對する縣費補助指令を受
銀行樓上に例會を開く管で
對する縣費補助指令を受
銀行樓上に例會を開く管で

故人追悼

平町十三日の會では常日
常磐銀行にて
常日十三日
平町十三日の會では常日
常磐銀行にて
常日十三日

不動澤炭車突落事件の公判

石城郡内郷村不動澤炭礦炭
車突落事件の公判は十一日
午後一時平支部公廷で開廷
されたが中島裁判長の訊問
に對する被告村松義雄(三五)
の供述は豫審に於けるもの
と同じく平署での自白を翻
して全然犯行を否認してあ
るが次回公判は来る十六日
午前九時の由。

眼を突く
踊子の乱暴
平町字仲間町五六六關佐吉
(三五)は舊盆十五日午後十時
頃田町松本木炭商店前に於
て盆踊中同じ町鍛冶職工山
崎儀徳(三七)と口論の末念佛
用鉦打棒で右眼を突かれた
外顔面其他を毆打されて
十二日儀徳を平署に告訴し
た。

出生と死亡

出生 平町字立町五山野
邊菊藏長女しめ子廿一日
平町字彌宜町十九村上七
之助長男輝夫三日

仕込み

仕込み 用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

醸造法(五)

醸造法(五) 仕込み
用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

市況

市況 船を漕ぎ河施
と云はれてゐる。

仕込み 用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

醸造法(五)

醸造法(五) 仕込み
用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

市況

市況 船を漕ぎ河施
と云はれてゐる。

仕込み

仕込み 用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

醸造法(五)

醸造法(五) 仕込み
用ふる食塩
水の温度はボーマ比重計一
食鹽十六斤、水一斗八升位
九一二〇度位がよい(これ
は何れかと云へば甘口の方
仕込をなすには先づ前日仕
込桶に食鹽水を作つて置き
七日に一回位の見當でかき
入を行ふのである、かくし
比率は普通等分であるがも
その中に出来た麹を入れて
仕込桶で熟成後の諸味の色は赤

改革概論 (140)

大内 民恵

参考資料
 之れが明治三十一年の七月頃で實に今を距ること三十二年前なのであります。それから其頃養育と教育の事に就いて種々興味を以て考へさせられたのであります。私の家では毎年養育をや其飼育中心は養父であつて常に良成績を上げて居たのであります。養育に對する養父の熱心は實に驚くばかりで掃立から上簾まで首尾一貫、給養、下立、休養、温度、通風と科學上から實驗上から、それこそ人格と養育(?)との相互交渉所請入養一體が徹底的に行はれたのであります。私などは其下廻り後で農桑休業の二十日間を全く養育、桑切、桑もぎ、まぶし折等をやらせられ、其「まぶし」折だけには天才的技術を有して流石の養父から「まぶし」はお前のでなければならぬとまで賞讃されたものであります。其「まぶし」折をやりながら常に教育の仕事も此養育に於ける如く入學より卒業まで一人の擔任者が絕對的に繼續しなければ決して良成績を擧げることが出来ないと今日の如き教育では必ず行詰りが来るに相違ないと云ふ様な事をしみじみと考へさせられたのであります。かくて其年も八月となつて暑中休暇となつたのであります。

萩原齒科醫院

萩原義雄
 平町南町
 電話二五九

安いからごと
 品はわらへ
 ません
 良いか、悪いか
 試してごらん
 小笠銘茶

大角園
 特約
 總てが
 お徳用向

市價三割安
 壽仙一〇錢
 福壽一八錢
 焙茶拾五錢
 番茶拾五錢
 川柳拾二錢

瓶詰和洋酒、罐詰雜貨、洋菓子類
 店商谷半
 (隣院病松若)町大町平

特別販賣
 日本石油
 株式會社
 支店 山形市
 支店 平町
 支店 松島
 支店 大船
 支店 大船
 支店 大船
 支店 大船

玉章堂
 平町
 三丁目元郡役所通

安流丸
 毒下の大妙藥
 平町三丁目

倉屋商店
 平町

姉妹品
 歌舞伎石繪
 玉の肌石繪
 優雅な匂ひ
 素的な感じ
 半五拾錢
 拾錢
 拾五錢
 モリタヤ洋品店
 五丁目 電話三五八番

召上りせ
 安くて
 うまくて
 品がよい
 カフェー
 タイラ食堂
 平町。電話五二三番
 院長醫學士高久忠

お兒様同伴
 のご散歩に
 保健と衛生
 を兼ねたる
 乳母車各種
 平町三丁目 電話三五九番
 各種
 あほん

味の醬油
 正宗
 山崎會社
 電話 釀造部 二七番
 營業部 一〇番

遠藤活版所
 電話七四三番

初秋とサロソ
 樽詰生ビール並に
 タンク入ソーダ水
 平町のソーダファンテン
 ジョッキ一杯 十五錢
 ソップ一杯 十五錢
 ソーダ水 各種 十五錢
 美味で 評判の 平町田町サロソ
 サロソの公休日毎月第三火曜 電話三五二番